

日 時	令和3年3月21日(日曜日) (14:05) ~ (15:40)
場 所	大庄北生涯学習プラザ1階会議室
資 料	「第7回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ レジюме」 「第6回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ 会議記録」 「施設部会 会議記録」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ意見に係る論点整理」 「施設部会における意見一覧」 「跡地活用における前提条件」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップの運営スケジュール」
内 容	<p>1 第6回ワークショップ(施設部会を含む)の振り返りについて (第6回ワークショップ(以下「WS」という。)及び施設部会での意見の振り返り)</p> <p>2 論点整理(意見のとりまとめ) (資料、「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ意見に係る論点整理」に沿って、論点整理について説明)</p> <p>参加者:地域団体という記載が多いが、地域団体とは具体的に何を考えているのか。</p> <p>市 :イメージとしては連協や単協など地域で活動している人である。</p> <p>参加者:公園の利用圏域の概ね半径250m~500m内の団体とあるが、範囲としては非常に大きい。もう少し具体的な地域の例を示さないと参加する人がわかりにくい。</p> <p>参加者:記載については福岡の事例を参考にしているが、今後地域のみなさんと話をする中で実際に参画してくれる人が対象になると思う。</p> <p>参加者:施設部会のなかでも話したが、地域からのアクセスが非常に悪い。大庄は広いので自転車に乗れない人などは来られない。資料には駐車場の建設を検討するという記載はあるが、高齢者も参加しやすいような公共交通網の整備などアクセスについての記載がない。</p> <p>市 :バスということか。尼宝線沿いは通っているが。</p> <p>参加者:バスでもコミュニティーバスでもいいが、ここに来られるようにしてもらえればいい。千代木園は3つ4つバスのルートがあるが、ここは1つしかない。今まで千代木園を使っていた人が来づらい。</p> <p>市 :「公共交通機関の充実や」という文言を追加させてもらう。</p> <p>参加者:小さいスペースならまだしも、これほど広大な土地について未来に繋げていかなければならない。社協の常任理事会にも出ているが、今の大庄地区の地域団体の代表者がでてきて話し合っても未来につながる画期的な意見はなかなかでないと思う。地域団体を無視する訳ではないが、もう少し幅の広い意見をだしてくれる、例えば学生などを取り入れて本当に未来に繋がるような形にならないと一般公園にした方がいい。大庄地区の場合はなんでも地域団体となりがちだが、必ずしもそれだけが正解とは限らないと思う。運営は地域の人が担わなくてはならないが、意見を出す段階では広く参加できる場をつくらなくてはならない。若い世代が何を求めているかは若い人しかなかなかわからない。</p> <p>また、コミュニティースペース(以下「CS」という。)もそうだが、地域の団体に呼び掛けを行えば、目的のある団体が集まるわけで、特定の団体ばかりが便利に使える公園になってしまう。例えば、全然関係のない第三者、他都市に住んで</p>

いる人からここにこんな公園があったら住みたくなるというような意見を出してもらおうとかそういう場が必要。CSについても意見を出す段階では高齢者の方々がふれた意見をだすだけならば、売り払った方が尼崎市の為になると思う。良い意見がでる場づくりを真剣にしなければ意味がない。

市 :先ほども地域団体とは何かという話があったが、まだ決まったものはなく、それも含めて今後話をしていくことになる。利用団体等という記載の「等」のなかに学生なども意味として含んでおり広く捉えてもらえたらと思う。

参加者:それであれば明確に書いた方がわかりやすい。この書き方だと今までの一般的に考えられる団体になる。例えば学生など、そういったことも考えているならば記載してほしい。

参加者:今後、地域でこの空間の運営をしていかななくてはならないという責任がでてくる。CSの4,500㎡については、本来、市は住宅開発をしたいと欲していたが、それを地域が活用するのであれば売却は一旦留保することになった。ただし、地域が運営できなくなった場合は売却しますよということがすごく念押しされた記載になっている。我々の頑張りで、どういった活用したら地域としてこの空間を残し続けられるかということが問われている。

新しい発想として、学生をという話もあるが、ここに住んでいる方の声を聞くことも必要。子どもの意見を聞くことは大事だが、我々大人がその声に応えられるのか、どこまで具現化できるかという実現性も踏まえて進めなければならない。一番気になるのは運営委員会がどのような形で構成されるのかということ。将来を考え、結果として、4,500㎡のCS部分についてはこういうかたちで残しますと我々が出した判断と市が受け止めてくれた部分、実際にどう使うのかというのは社協もそうだし、近隣の連協会長や近隣住民も騒音トラブルも出てくると思うが、そういうことも考えながら、大庄に住んでいる一人ひとりがどう関わられるのかということを議論していかななくてはならない。

住民一人ひとりの覚悟がある。今日がスタートになると思う。そのためにもここに足りないものがあるなら今日の場で市に伝えなくてはならない。

市 :プラットフォームについては、WSが終わった後、地域のみなさんと相談させてもらい、どのような団体、どのような範囲とするかなど、今後一緒に考えて進めていきたい。

参加者:今の意見と概ね同じだが、公園は10,000㎡、残る4,500㎡はCS、体育館は2,000㎡と決められてしまっている。4,500㎡は市としては売却したいという話だが、留保して一旦預けますよとなっている。地域として非常に重いものを受けざる得なくなっている。行政側は一定譲歩してくれたが、もう少し譲歩して、まずは公園を14,500㎡でスタートする。そこから考えていくということにしてほしい。この文章では衣の下に鎧が見え隠れしているように受け取れてしまう。

参加者:CSは都市計画区域として設定されないなど公園とは多少違いはあるが、地域のみなさんが公園的に使える場所であることに変わりない。ワークショップ(以下「WS」という。)の中で市の考える前提条件を提示し、そこからの議論をさせてもらった。その中で、市としてもCSとして活用するならば売却は保留するという形の提案をしてきた。そういったWSでの経緯も踏まえた論点整理であり、降り出しに戻して同じところからスタートというよりは次のステップとして協働型の公園やCSの新たなプラットフォームづくり、具体的な活動の検討といった次のステップに進んでいきたい。

参加者:これを読んでいると、WSとしての意見ではなく、全て市としての意見として書かれている。WSとして売却しますよという書き方ではなく、「売却する」、としたらいい。コミュニティースペースも「地域が活用すること」、としてくれたらいい。私たちは保留なんて言っていない。売のをやめてと言っている。運営の話し合いについても「新たに場を設けること」、としてくれればいい。「～します」、では市の目線で、我々がするというかたちではない。

市 :確かにWSとしての意見のなかに、市の前提条件も混ざっておりややこしくなっている。末尾については文言整理させてもらう。

参加者:配布資料の「跡地活用における前提条件」でも定住転入促進が前面に出てきており、CSが後になっている。我々はコミュニティースペースとしてまず活用していきたいと考えているのに順番が逆ではないか。地域住民の意見がまとめればという書き方についても、そもそも我々はまとめていこうとしている。売却が先にくるととりまとめとしては後ろ向きになってしまう。私たちの意見としてだすのであればCSをまず前面にだしてほしい。

市 :修正する。

参加者:主体となる気持ちを持つためには、若い人達、子どもたちにこういうものやっいていこうではないかという沸き立つ気持ちが起こるのかということが必要だが、そういうふうには思えない。生涯学習プラザを中心に一体となって、ここを地域の為に活用することを考えて動かなければならない。先ほども話があったように、既存の会長が集まって日頃の思いだけで話をされたら本当に夢を感じる話にはなりえないと思う。子どもたちにとってこの町に住み続けたいと思えるようなものを作り上げるんだという気構えを文言として入れてほしいと強く思う。

お金をかけて何かをつくってくれというお願いではなく、お金をかけずに素晴らしい空間ができたということを目指す。一年でできるものではなく、色々な人達の方で進化し続ける、そういったことが町の愛着、誇りになる。自分たちがやるんだと思える文言にしてほしい。

また、施設部会のなかでも話であったが、既存の事業で枠が埋まってしまい、新しいことができる可能性を感じる施設ではないのではないか。公園、体育館を一体的に考えれば様々な需要が満たせるのではないか。

おもしろ広場でサッカーなどのスポーツをしている人達は、自分たちがどうなるのかと心配している。自分たちも一緒に頑張るのでなんとか活動の場をつくりませんかと呼びかけようにも公園という文言では、サッカーなどをできるイメージをもてるのか。フットサルの関係者が傍聴に来ている。運動公園というイメージを言葉の中に入れてほしい。

CSは繋がりをつくる為の拠点。話し合いは2年3年かけてようやくできると考えた場合、その間、何の活動もできずにいると夢が萎んでしまう。既存の格技室などを有効活用して、そういう場を提供してほしい。意見として言ってきたが文言にはない。

市 :公園、CSについての運営は、地域の団体の方や個人的に参画したいという方もいると思う。子どもたちの夢や未来に向けてやっていく新たなプラットフォームを作っていくにはかなりのハードルがあり、行政だけでも決められないし、地域の方も色々な団体があるので、進め方が難しいところはあるが、WSとしては協働型の公園、CSを進めていこうという意見としてまとめさせてもらった。今の意見は

次のステップで議論していく部分になる。

参加者:そういう議論ができるということか。

市 :議論をしていかないと勝手に行政や特定の団体がという形ではできない。どういう人に参加してもらうかというところから議論が必要かと思う。

参加者:今日、フットサルの関係者が傍聴に来ているが、フットサルをしたい方が次からの話し合いに入ってきたら、フットサルができるようになる可能性はあるのか。可能性がないならそこで若い人が抜けてしまうという懸念がある。連協の人達と交じって話し合いをして若者がやりたいことをできるスペースが確保されるのかが気になっている。

市 :市が勝手にこの人達だけを入れるということではなく、可能性は広くもっていかなくてはならない。野球、サッカーなどの意見もこれまでもらっているし、一方で、防災に特化した広場だけの公園がいい、遊具が欲しいなど多様な意見がある。このWSのなかだけではできると、できないことの結論はだせない。

参加者:10,000㎡の公園というのは遊具だけの公園を示しているのか。グラウンドも含めた公園の余地もあると考えていいのか。

市 :公園の中身については現時点では白紙だが、公園部会でもボール遊びができるようなグラウンドがほしいという意見がかなり多かった。よって、木の生えただけの憩いの場のようなものとして意見がまとまることはないだろうと個人的にはイメージしているが、そこもこれからの議論次第である。ちなみに、この近辺に道意公園という12,000㎡程の大きさで形のよい公園がある。その公園のグラウンド部分は4,600㎡程である。今後の議論のなかで、活動内容も見据えて、グラウンドがどの程度欲しいなど具体化してくるかと思う。また、先ほどフットサルの話も出ていたが、基本的に公園は24時間だれでも自由に使える場所である。ただ、今回の協働の公園であれば、地域でルールをつくって運営すれば、時間を決めてフットサルをすることもできると思う。また、フットサルコートが800㎡程必要なようなので、もっと自由にフットサルをやりたいという地域の声が集まればCSでもできるのかなと思う。具体的な話については先ほども意見であったが2、3年かかることもあるかもしれない。しっかりと話し合いをしていくことが大事。

市 :意見を整理すると、①(仮称)大庄健康ふれあい体育館のところの1行目のところに、「公共交通機関の充実や」という文言を追加。②「～のこと」という表現の方が適切な部分については末尾を整理。③前提条件の図面のなかで、CSと定住転入促進の記述を逆転させ、「地域住民の意見が集まれば」という文言を削除する。ということで修正させてもらい、大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップの論点整理とさせてもらうが異議はないか。

全員 (異議なし)

市 :異議はないということなので、これをもって「意見のとりまとめ」とさせていただく。後日、修正したものを配布させていただくこととし、WSは本日、第7回で終わりとさせてもらう。

3 その他

参加者:今後、市として大庄西中学校跡地の方向性を令和3年度のできるだけ早い時期に

決定し、改めて地域のみなさんにお伝えしたい。令和3年度については現場は動かないが、次に進む為のステップになる年と考えている。

4 WSメンバーから最後にひとこと

参加者:行政、WSメンバーのみなさん、長期に渡り大変お疲れ様でした。結論からいうと、大庄中部地区の方々が主体になるという運営の方向性が大事だと思う。このWSに参加させてもらったが、虚しさが残っている。何が決まったのだろうか。決まったのは南ノ口公園を売却するというを明確にされていることだけ。大庄地区は北部から南部まで縦長になっており、中央に生涯学習プラザがある。ここが拠点であり、お城のようなものであるという意味では大庄地域の人の誇りとなる場所だと思う。そういう意味では大庄の中心であるということをお我々は自覚するべきだと思う。たくさん意見を言ったし、みなさんも思いが伝わることを期待してきたと思う。要するに南ノ口公園の売却のみが決定していることに今日の結論として遺憾を感じるが、具体的な面で欠けているところが今日意見がだせて、文言の変更もあったと思う。要するに公園の運営など、全て表現のなかでは、要するにこうだというものはないし、3部門の部会が改めてできそうな感じで、今回参加しているメンバーからみたら200mから400mからと言われると南部の人も北部の人も参加する権限がないのかというかたちの非常にさびしいものがある。ただ、中部における方々が活性化できて、運用のなかで、この場所が大きく発展するかたちになることを強く望む。北部中部南部における地域性を発揮できるかたちのなかで、そういう人達の声を反映させながら活性化させていく。そして北部中部南部競いながらこの地域を発展させていくことが大事だと思う。大庄支部の3役をさせてもらっているのも、これからもなんらかの形で関わっていきたいと思うが、この長い時間を費やしてきたことは市の方も大変ご苦労だったと思う。我々も苦労したが、ただ言えることは、なんとなく無力感というか一生懸命意見した割には文章のなかに反映されておらず残念な感じがする。

参加者:もともと南ノ口公園が売れないという前提でこの話し合いが始まったと思うが、売れるようになったのなら一体何の集まりだったのだろうか。10年前の話し合いにも参加していたが、10年前の提言と、10年間進まなかったことと、今回のWS、非常に無駄な時間と無駄なお金を使ったと思う。南ノ口公園が売れるのであればそれで終わった話。何が大庄地区にとっていいことがあったのかという。今後無駄な時間と無駄なお金を使ってまた無駄な利用の仕方をするだけでは辞めてほしい。途中で課題整理ができず、市民の共有財産を有効利用できないということはないようにしてほしい。私も協力してできることはしていきたいと思うのでこれからもよろしくお願いします。

参加者:この1年間ずっとやってきて、やっと10年前のスタートに戻ったという気がしている。だからこれからは後ろ向きではなく前を向いてこの跡地が利用できることを協力してやっていきたいと思う。

参加者:スタートした時は南ノ口公園が公園として残って、大庄西中跡地が住宅開発されるということで地域としてはプラスではないものを提示されていた。元々は、ここが地域としての中心だということで提言をだしたものが実現できないとなったものが、一応、我々が1年かけてWSをしたおかげで元の提言に戻せた。この点では、この1年の成果だったのかと思う。ただ、10,000㎡と4,500㎡と2,000㎡という土地の割り方については合意がとれたという形になっていると思うが、実際に割ったものをどう使っていくかはこれからである。市が、この1年間かけてやってきたことを整理し、それぞれの使い方について地域に投げかけがくることになると思うが、それに向けて我々はどうしていこうかということをお今の段階から早めに考えていかなければならないと、今日の議論がまとまれば、そう思っている。最終的には、行政も一旦住宅開発すると言っているものを再度、南ノ口

公園を売却するという事で内部調整が大分かったと思うが、そこは地域の声を聞いて変えてもらった。これは大庄地域にとって、我々がやってきた成果なのかなと思っている。

参加者: コロナ禍の非常に厳しい条件のなかこうして1年間にわたってやってきて、一定結論がでたということで、事務局のみなさんに敬意を表したいと思う。ただ、これからが始まりなのかなと思うので、行政のみなさんには、これまで同様、根気強く地域住民の意見を拾い上げていただければと思う。今後もよろしく願います。

参加者: いい経験になった。ありがとうございました。10年前は参加していなかったので、何もわからない状況からのスタートだったが、10年前に参加していた方々が色々な意見をだし、それを聞きながら1年間参加してきた。結構難しいことが多いなと感じたし、市が考えていることと、私たち民間の人が考えていることの相違も感じたし、先ほど発言されていたようにどこまで反映されているかわからないというのは私自身も半分くらいは思った。かといって、自分たちが出している意見が100%反映されるような市であっても怖いところなので、どの程度まで意見が反映されるのか、その中で自分ができることはやりつくしたかなという意味では、私はやりがいのある1年だったと思っている。ただ、これからが始まりだと思う。年代が上に行けば行くほどだと思うが、今の若い子どもたち、その子どもたちを育てている30代の親世代というのは思っている以上にボランティア性はないと思う。私自身現役の保護者だというのもあるし、PTAの役員や子供会の活動をしていると感じることだが、実際に斬新なアイデアや意見はだしてくれると思うが、それを実現に向けて共に頑張りましょうといった途端に、そういう無駄な時間を持ちたくないというのが大半の意見だと思う。これをうまく活用できる術を上年代の方々には吸い上げる力として発揮してもらえたらと思う。

参加者: 最初から最後までよくわからないことが続いているが、一方で、形として書面1枚にまとまるくらいにはなったんだと思う。みなさんが言う通りこれからだと思う。私は浜田町に住んでいるので正直に言うてしまうどうでもいい。ただ、ここに子どもの頃来た記憶はある。なぜならタコプールがあったから。ここにしかないものがあって遠くから来ていた。そういうものができれば遠くからも呼び寄せることができると思う。先ほど話であったように、30代のお母さんは、これしたい、あれしたい、というものはすごいいっぱいあるが、やろうかとなると面倒くさい、だれかやってくれればいいやんとなる。ただ、なぜか子どもがやりたいといって子どもが行ったらそれには絶対付いて行く。付いてきて手伝ってって言ったら問題なく手伝ってくれる。なので、もっと子どもを引きずり出したらいと思う。小学生は校区外の子どもたちは来られないので、動けるのは中学生。高校生は市外に行ってしまう。今、中学生のクラブ活動は少ない。大庄見守り部みたいなものを作って、大庄北中も大庄中も帰宅部で何もすることないという子は地域に目を向けられるこんなクラブあるよというポジションができれば、あとはそこを見守る大人がいればいだけ。クラブ活動として地域に出向いていく。そうするとその子たちは中学の3年間で終わるが、その下に生徒が入ってくるので流れはできる。それが自分たちがしたいと思っていることを実現できる場所なんだと感じることができたら、夢に近いが、実現不可能ではないかなと思う。私の子どもは5年生だが中学校に行っても入るクラブがないと言っている。水泳部もなくなった。私ならそこに地域見守り部があれば、どこも入るところがないなら地域見守り部行ったら、じゃあだれか誘っていくわと。クラブ活動なので強制性はない。だけどマンパワーが集まる。そうしたら子どもたちは大庄地区に目を向けるのではないかと。お祭りで青年部に入っている子が大きくなってそこに行く、みたいな感じができればいいなと思う。夢を持たないと実現していかないので、夢を語りつつ年輩の方には実現化を推し進めていただいてうまく進めていければいいなと思う。

参加者:お疲れ様でした。10年前のことは全然知らずに参加させてもらって、この1年間のなかで1番話が濃かったであろう第6回のWSに参加できなかったのが、流れが抜けてしまったという感覚だが、10年前からのことを知れたということで非常に勉強になった。今後こうしてほしいということは、園田のいくしあのように子どもが安心して集まれる場所になればと思う。勉強ができたり、本が読めたり、ゲームができたり、音楽ができるところもある。私の子どもも高校生の頃に友達と一緒に行ってギター弾いたり、キーボード弾いたり自由にさせてもらって、やはりそういうところで趣味、楽しいなと思えるところから色々広がっていく、上達していく、何かで有名になるなんてこともあるかもしれない。色んなことを小さい時から経験できる場所、みんなが集まれる場所であってほしいと思う。あと野球ができるところはすごく多いと思うが、サッカーできるところが少ないと聞く。学校開放も小学校で利用者団体が使っているのは外なら野球、中ならバスケやバレー。サッカーできる場所が少ないので、この広い地域でサッカーもできる場所があればと思う。サッカーで有名になっている人もいる。尼崎からそういう子が出てくれたらうれしいので、子どもたちがそこで上手になってプロになりたいといった夢を持てるような場所になってほしい。あと、生涯学習プラザと、今度できる体育館、公園という施設全てが連携して、体育館がいっぱいで使えないというときは生涯学習プラザでとか連携して活用できる場所になってほしいと思う。

参加者:私も浜田に住んでいて子どもが小学校5年生だが、私は仕事でも関わっていたし、子どもと一緒に保育園の仲間と集まっておもしろ広場にも関わっていて、実際の活動もしてきて、おもしろ広場に思い出がある。その10年間やってきたことについて、このWSで評価を出してもらってすごい熱く話をしてもらってありがたかった。大庄地区は高齢者が増えて子どもも少なくなっていくが、ある意味それは特徴だと思っていて、何も他の地区と同じである必要はなく、子どもが少ないという特色を活かして、子どもが輝ける場所が逆にできると思う。高齢者も高齢者なりの関わり方ができると思っている。画一的な公園を作るのに何の意味があるのかとどうしても思っていた。大庄ならではの公園を作っていけたらいいのではないかと最後まで思っているのだから、これからは熱い議論ができるような会で、いい公園ができて、小5の息子は毎日浜田公園に遊びに行っている。そういった公園に子どもの賑やかな声が聞ける公園を是非作ってほしいと思う。

参加者:1年間ありがとうございました。私はPTAに関わってから約18、9年、学校の跡地という話でしたが実は統合の為にこの地域でいい学校を作ろうということで頑張り始めてそれを5年やって、最終的に空いた土地で10年やった。私は何のために何をしていたんだろうと考えてみると私自身というよりも私も含め子どもたちもみんなこの町に住んでいたいよなという仲間として誇らしく思える町にしたいと感じた。政治的な話ではなく、そのために学校の跡地を大庄中学校をつくる時に今でいうコミュニティスクールという考え方を10数年前に導入して教育長を納得させたつもりだったのに校長先生がそれを造反して普通の学校になった。啓明中学校のみなさんには本当に申し訳ないと思っていたら、跡地を何とか新しい地域の誇りに思えるところを作れるのではないかと感じておもしろ広場を作り、2年のつもりだったものが10年やった。その中で何を感じたかというところのおもしろ広場で、結果的にどんなことが魅力なんですかというところは何もないこと。何もないことは素晴らしいという発想というのは実はある。発明博士が来たり、様々な実験をしたり、淡路島から馬を連れてきてパレードをしたり、結婚式をしたり、非常に色々なことがあった。そういう意味ではおもしろいことができたなと思っている。ただ、こういう流れのなかで、これから一体何がどうなるんだろうかと考えたらこの尼崎市がコロナでさらに財政難になるなか、本当にできることをやるというのはどういうことなのかを考えたら、市に対して、色んなことを要求することではないと思っている。実際できることでやればいじや

ないかと。この6月に気候変動に関する非常事態の宣言を尼崎市はだす。それに向けて我々も動いているが、例えば物をすぐにゴミにしてしまうとか、きれいに
して新しいものつくったらいいではないかという発想ではなく、実際に10年間
やってきた様々なおもしろ広場の人、モノ、情報、全てを活かすようなことをや
ってもらえれば、コストを下げることができると思っている。そういうことをや
ることが持続可能に繋がっていく。それをやるときに人が結果的にはお金がない
から人が協力して一緒にやっていくという形で初めて人が繋がっていく。これ
は自分たちがつくったところなんだという思いをもってこの場所が活性化して
いくのではないかとと思っている。私もあと何年できるかわからないが、精いっば
い頑張れるだけ頑張りたいと思っている。おまけに自分の娘にこっちに帰ってこ
ないかと2年かけて説得して、ようやく、来週子どもを連れて帰ってくることに
なった。その時に、何でここなのか。西宮ではダメなのか。という基本的にこの
場所は何なのかと問いかけられながら、話をして最終的にみんなでいいところを
つくろうではないかという思いをもってやろうと思っている。私はできることし
かできないと思うが、みんなが力を合わせれば色々なものが徐々に変わっていく
と思っている。みなさんにそういった気持ちで協力してもらえればありがたいと
思う。私も精いっばいするのでお願いします。

市 : ありがとうございます。令和3年度から皆さんの思い、夢を踏まえて新たなプ
ラットフォームづくりをしていきたいと思う。WSそのものは本日をもって終了と
させてもらうが、引き続き、みなさんにはまちづくりへの関わりや意見をもらっ
たり、新たなプラットフォームにも参画いただければと思う。

6 所長挨拶

(所長より閉会にあたっての挨拶)

以 上